



## 仲井真小学校区の介護の担い手を考える 地域円卓会議

生活支援の必要性がある方と、活躍の場を求める地域高齢者を  
マッチングさせる「まーいまーいケアサイクル」プロジェクト。  
どうすれば成功するのかをみんなで考えよう

### 実施報告書

日 時： 2025年10月8日（水）18:30-21:30（受付開始 18:15-）  
場 所： 那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha ホール（那覇市字上間 549 番 1）  
共 催： 那覇市、株式会社大翔  
企画運営： NPO 法人まちなか研究所わくわく、公益財団法人みらいファンド沖縄

報告書作成  
NPO 法人まちなか研究所わくわく  
公益財団法人みらいファンド沖縄

# ACTIVITY REPORT

## 【報告】仲井真小学校区の介護の担い手を考える地域円卓会議



■日 時：2025年10月8日（水）18:30-21:30

■場 所：那覇市人材育成支援センターまーいまーい  
Naha ホール

■着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）

■参加者数：67名（地域包括支援センター、自治会等）

■共 催：那覇市、株式会社大翔

■企画運営：NPO 法人まちなか研究所わくわく  
公益財団法人みらいファンド沖縄

### 論点提供

### 赤嶺 和紀（株式会社大翔）

#### 生活支援の必要性がある方と、活躍の場を求める地域高齢者をマッチングさせる 「まーいまーいケアサイクル」プロジェクト。どうすれば成功するのかをみんなで考えよう

那覇市仲井真を拠点に介護事業所を展開する株式会社大翔は、なは SDGs 推進事業の助成事業に採択されました。同社が提案する「まーいまーいケアサイクル」プロジェクトは、那覇市仲井真小学校区をフィールドに、掃除や買い物などの生活支援を行う訪問型サービス A 制度を活用し、地域住民が主体となって地域高齢者を支え、同時に自身の健康も促進する取組みです。2つの大きな課題「高齢者の健康促進」と「介護の担い手確保」を同時に解決することを目指します。ここで重要なコンセプトは、サービスの担い手が歩いていけるエリアに注力・展開していくことです。この事業の成功は、仲井真小学校区の生活支援が充実し、自立高齢者の社会とのつながりの担保とやりがいを生み出すことが期待されます。

今回の円卓会議では、この事業が成功するために必要なデータや制度、仲井真小学校区の特色等を様々な視点から確認し、住民と協働できるためのポイントを探ります。

### センターメンバー



赤嶺 和紀  
株式会社大翔  
介護福祉士



金城 真理枝  
那覇市福祉部  
ちゃーがん  
じゅう課  
担当副参事



仲程 大輔  
社会福祉法人  
那覇市社会福祉  
協議会  
地域福祉課 課長



大城 達雄  
那覇市包括支援  
センター国場  
保健師



嘉数 芳則  
仲井真小学校区  
まちづくり  
協議会  
理事



田中 将太  
琉球大学  
人文社会学部  
人間社会学科  
准教授

<板書記録>

R7年度なはSDGs推進事業  
仲井真小学校区の  
介護の担い手を考える  
地域円卓会議

生活支援の必要性がある方と  
活躍の場を求める地域高齢者  
とマッチングさせる「まいまいケル  
サイクル」プロジェクト。どうすれば  
成功するのかをみんなで  
考えよう。

那覇市民SIB  
1年目(2025) 地域事業  
2年目(2026) SIB+地域  
プロジェクト

2025.10.8(木)  
18:30~21:30  
① 那覇市人材育成支援センター  
まいまいNaha

地域の困りごとを  
社会課題として  
共有・共感する

赤嶺 金城 平良  
仲程 大城 田中  
嘉数

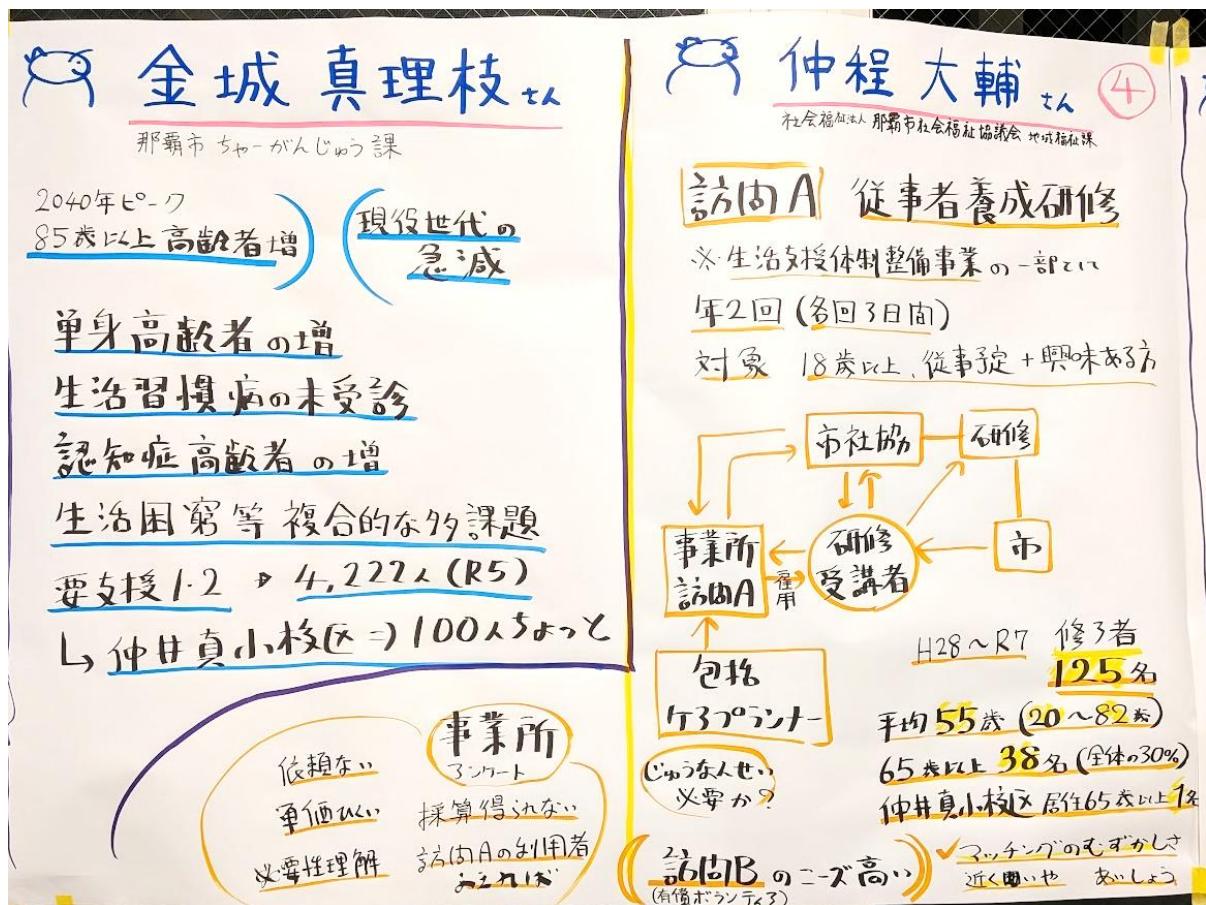
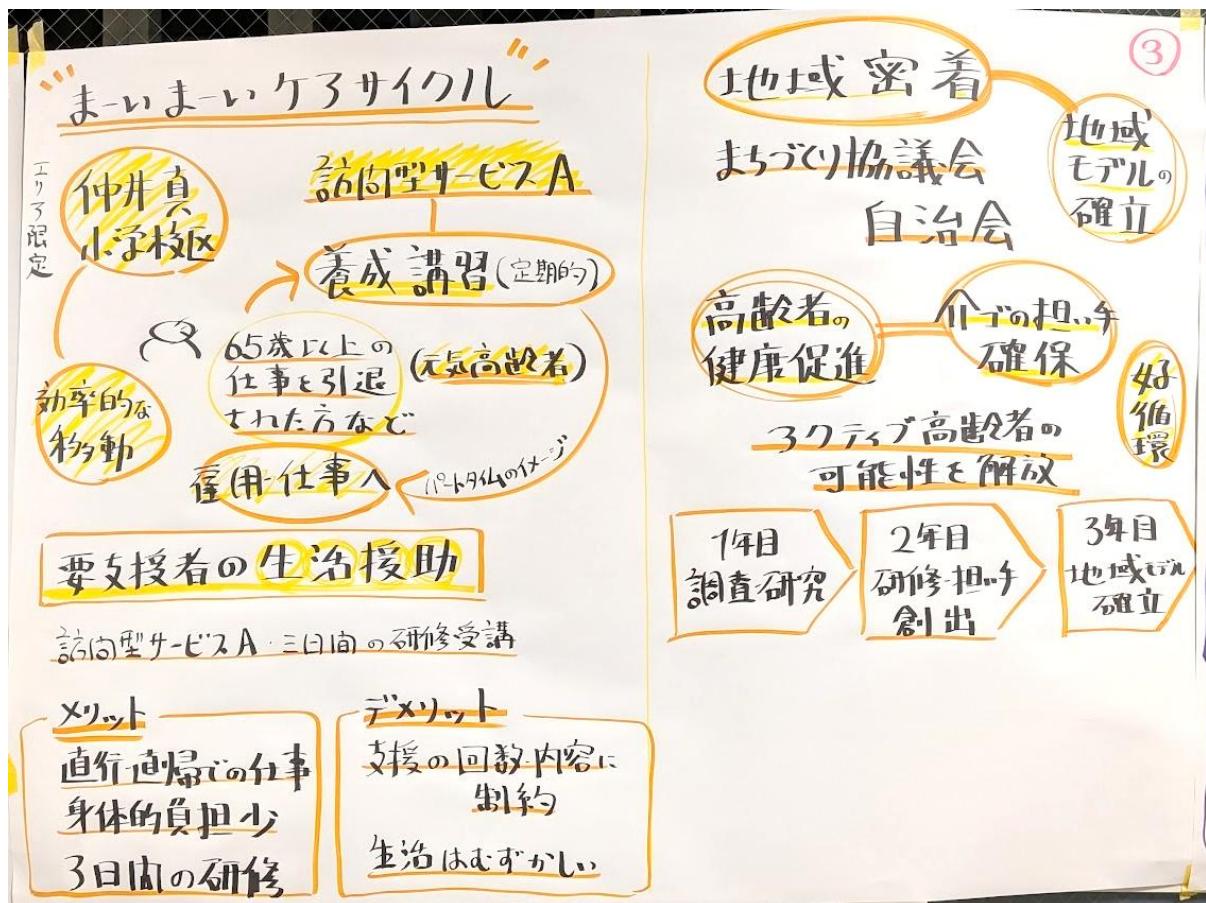
共催 那覇市  
株式会社大羽  
企画運営 NPO法人まちなか研究所  
公益財団法人サザリファンド  
沖縄

論点提供  
赤嶺和紀さん  
株式会社大羽 介護福祉士

12年前に介護福祉の業界へ  
2023 ふるなみ介護へ

2025.1 介護保険外サービス  
を開始  
地域包括支援センターへ  
要支援者の生活援助の受皿不足  
訪問型サービスA  
年2回養成講習  
受講生  
要支援者 事業所  
スケジュールに課題

まいまい  
ケルサイクル  
✓ 介護保険財政ひっ迫  
と担い手不足  
✓ 介護支援者の人手不足  
✓ 要支援者の支援不足  
事業所 約50%職員不足  
仲井真小学校区  
R2→6 160世帯増  
200人以上



**大城 達雄さん**

那覇市地域包括支援センター国場

**仲井真地区**

- 329号の北側 → 自治感、ささえあ  
戸建多く、長く住まれて  
いる方々との印象
- 南側 → 40~50年前の住宅地  
商業施設、転入の方の3割
- 65歳以上 → 20.29% (市24%)  
若い人がタタ  
外出のひん度が少ない  
活躍できる場  
があれば
- 心身のおとえにつながりやすい  
とりくみが介護と連携することで  
なれば
- お年寄りと介護サービスのちか  
自由につかる  
本人の力を引きだす視点  
も重要

**嘉数芳則さん** (5)

仲井真小学校区まちづくり協議会 理事

1996 仲井真中学校区に市立公民館を  
まいまい Naha へ  
くねくね公園の整備

仲井真小学校区まちづくり協議会  
国場川こいのぼりまつり

329南側→全戸廻ったせい施工場  
復帰後、人が住みはじめた  
そのまが今小学生

家事支援 (いっしょに) = ゼ 大  
まるまる代行 → ゼ らうな

**田中 将太さん**

琉球大学 人文社会学部 人間社会学科 准教授

**制度と市民の「あいだ」**

**関係のリラティ** **実践研究**

担々不足...

**制度福祉** → **生活福祉**

専門職によるサービス → 住民の互助・見守り

条件を満たさない利用でない  
専門職が介入するほどでもない  
しかし住民だけでは担えられない

**まいまいケンサイクル**  
「制度と生活のあいだ」を  
満たす試み

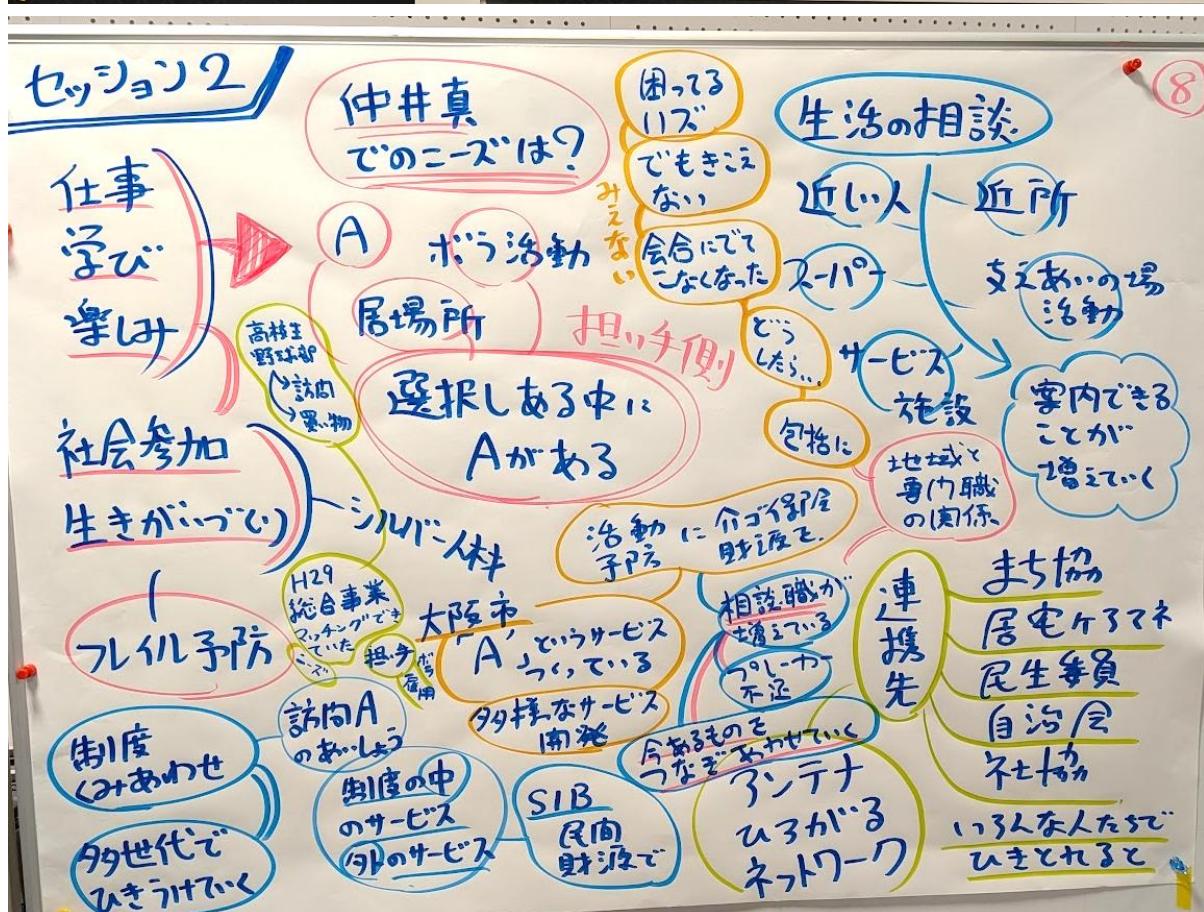
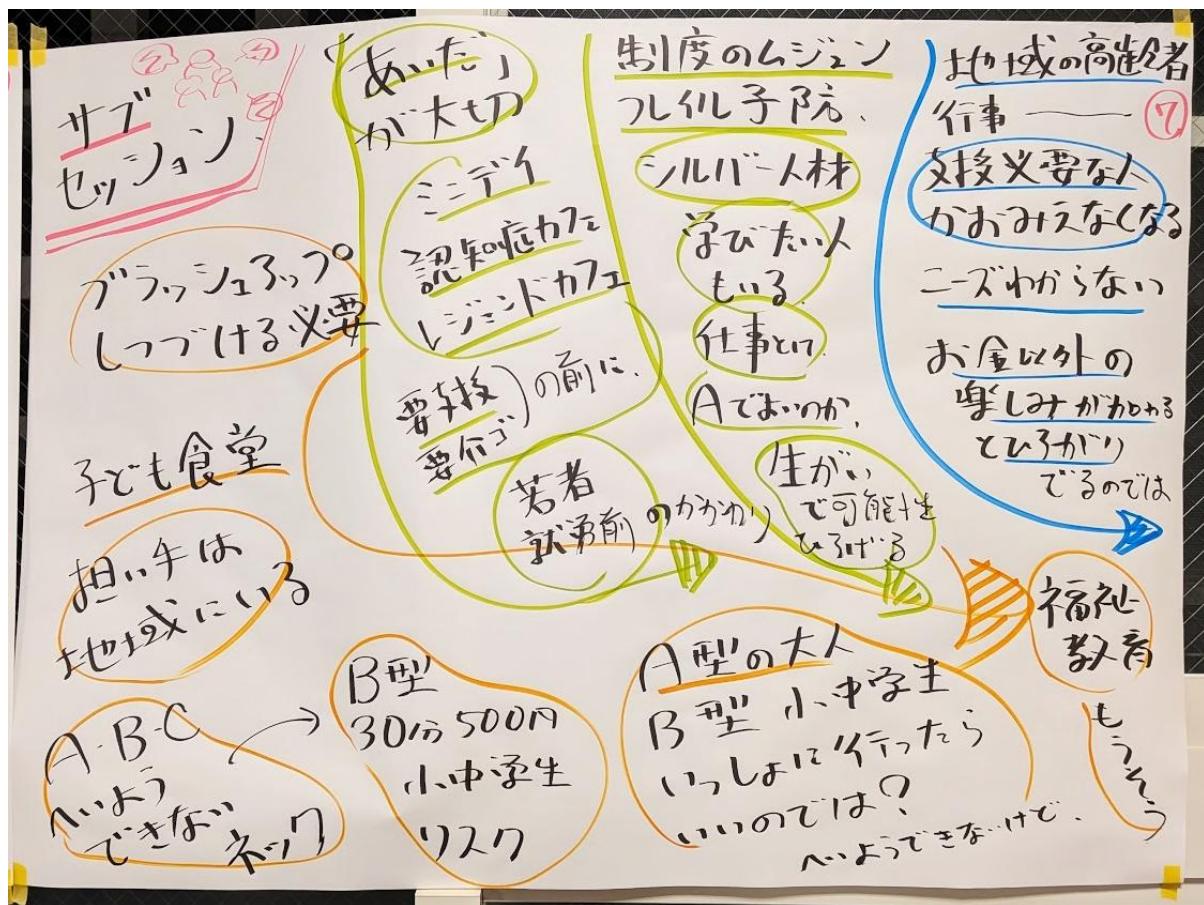
**新たな価値** (6)  
社会でシェアしていく

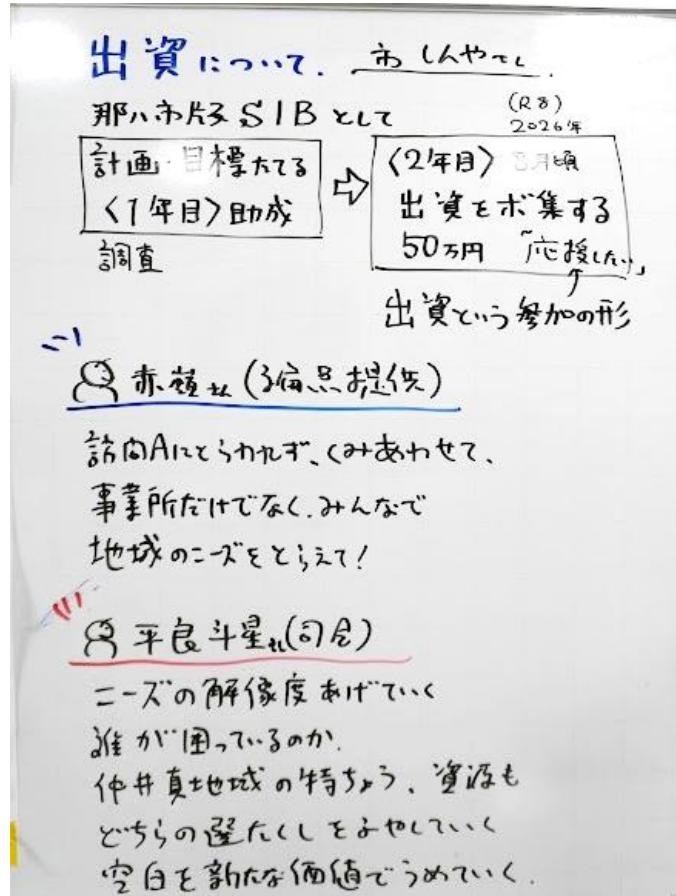
**介護事業者**  
担えないと  
雇用・マネジメント

**地域住民**  
徒歩圏で  
支えあい

**行政地域包括**  
マネジメント・行政計画、  
評価で下支え

**安心して老いていくための実践知  
と地域に蓄積するとりくみ**





## ■今後のアプローチの方向性

### 1) ソリューションのリストアップ

訪問型サービス A に限定せず、さまざまな選択肢を調査・検討する。介護保険の枠にとらわれず、地域に提供できるあらゆるソリューションを俯瞰的に捉え、リストアップする。

### 2) ニーズの明確化

制度上の想定や既存枠組みではなく、地域住民の「誰が・何に・どれくらい・なぜ・困難を抱えているのか」を丁寧かつ具体的に把握する。

### 3) マッチングから生まれる「新しい地域価値」の言語化

訪問型サービス A の従事者とサービス利用者のマッチングによって生じる成果や変化を可視化する。地域住民が主体的に関わり、喜びをもって参加することにより、新たな社会的価値が生まれるのかを言語化する。

### 4) 制度の解釈案の提案

地域から上がった意見や課題を整理・集約し、新しい制度活用や解釈の提案として行政に働きかける。

## ■参加者によるサブセッション

### 生活支援の必要性がある方と、活躍の場を求める地域高齢者をマッチングさせる 「まーいまーいケアサイクル」プロジェクト。どうすれば成功するのかをみんなで考えよう

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ 日用大工とか得意なことなら…
- ・ 手当とかより付加価値が大切
- ・ 制度にぶらさがる→介護待ちになる
- ・ 地域の事業所でお茶のんだり  
ゆんたくの場になれるんじや
- ・ 包括になげてもいいかな  
↳情報源になるかな
- ・ 孫の世話してるが、成長した後…
- ・ 仕組みをうまくつかえればな
- ・ 子どもやPTA→うまく活用もあり
- ・ 制度にしばられる、、、まち協に相もあり
- ・ ためになりました
- ・ 訪A→調整しつないだことがある  
時間がかかった

思ったのと違う…(利用者)

→専門がいい、、、

- ・ A→従前に切り替えた
- ・ 市民の意識が大切
- ・ 週に1回も出ない人がいる→ひろえない
- ・ まちやーとかゆくるところがあった
- ・ 理想→支えたら支えられる
- ・ 制度上時間がかかる
- ・ 高齢者→プロジェクトやない、、、  
マッチングも大変

②

- ・ 参加する人、受ける人もWINWINで良い
- ・ 単純じやない、ブラッシュ
- ・ まち協一子どもたちだけの子ども食堂に高齢者  
買い物行ってくれる人いる  
やる人いるんじやないか

・ 沖大ボラサボ<sup>®</sup>

- ・ キーワード  
AとBの柔軟性
- ・ 併用問題

③

- ・ 利用する側が知らないとつながらない、利用できない
- ・ プロジェクトを市民全員(家族は市外かもしれない、市外も含めて)知ってもらう必要があるのではないか
- ・ 色んな所からの広報・周知が必要ではないか。
- ・ 地域の方に見られたくない、自宅に入れることに抵抗はあることをどう解消できるのか  
が課題では?

④

- ・ どうすれば成功するのか?
- ・ 制度の理解が難しい
- ・ →理解してもらう→研修
- ・ 例) 沖縄市、研修受けたでも雇用につながらない
- ・ 気が重い
- ・ 訪問介護への理解→訪問リスク
- ・ おためし期間など相性(利用者+住民)を確認
- ・ デリバリーなど登録→ボラセン・マッチング  
アプリ開発

⑤

- ・ どうやって困っている人を探すか?
- ・ 国場自治会
- ・ 元々ある自治会

- ・ プライバシーを気にしてかえって難しい
- ・ ちょっと離れている方が良いのでは
- ・ ゆんたく仲間はいいけど中に入る(世話になりたくない)
- ・ 自分からは相談しにくいのでは
- ・ 友達単位での関係性で

⑥

- ・ 介護認定受ける程じゃないけどサービスを必要としている人もいる
- ・ 民生委員として知り得た介護、支援が必要な情報は包括に提供

⑦

- ・ サービス利用したい人と手伝いたい人の両方できる人へのマッチング
- ・ プライバシー配慮のカベ
- ・ 65 歳の集い (定年を迎えた同窓会) とかで制度説明?
- ・ 日頃からのコミュニティが重要

⑧

- ・ 「あいだ」が大切だと感じた  
→支援が必要な前の支援を考える必要性(レジエンドカフェなど)
- ・ スモールステップ(仕事として若者も参加できれば)
- ・ どうすれば実走するためにどうするか?
- ・ 訪問 A 以外の生きがいも必要
- ・ 生きがい=仕事だけではない

⑨

- ・ 心配、サービスの質、単価低い、利益出ない、CSR
- ・ 障害の方で利益、南部 70 名
- ・ 利用者 20 名 ここで利益
- ・ いいことづくめに見えた
- ・ 課題大きい、ニーズあるか?マッチング
- ・ ニセコはコミュニティ生きてる

- ・ 共助、5000 人
- ・ 移住者多くなっている
- ・ 助け合い
- ・ A 自分でできること多い
- ・ 水回りのそうじのみ
- ・ 質を求める
- ・ お気に入りのヘルパー
- ・ A より B は?

⑩

- ・ 訪問 B ニーズ高い
- ・ コーディネーターが 1 人
- ・ 需要>供給 100 名が登録  
→実働 20 名 マッチングが難しい
- ・ B 養成講座 1.5H
- ・ サービス内容はほぼ同じ
- ・ 料金は自己負担なし
- ・ 必要な社会資源を結びつける
- ・ 従前・訪問 A・B・軽度生活援助…
- ・ 田中先生のおっしゃる空白を減らすため  
介護予防対策 啓発

⑪

- ・ 地域のあつまりをどうやってつくれば良いのか
- ・ ポイント制度  
お金をもらってるばかりではない、自分のためにも
- ・ プライバシー

⑫

- ・ 事業所が A を立ち上げるのはすごい
- ・ ハードルが高いが成功したらすごい
- ・ マッチングでつなげられたらいい
- ・ 当事者との対話必須
- ・ B から A に
- ・ 責任 背負いたくない

⑬

- ・ 県外からの視点／すでにある事例一住民負担  
→プライバシーの課題、どこまで任せるか、自治会が回すと出る課題が企業が入ることで解決できるか
- ・ 周知の課題
- ・ 資金と持続
- ・ リスク管理
- ・ ボランティア？仕事
- ・ ☆むしろ外から来てほしい人もいるかも

⑭

- ・ プロジェクトについて
- ・ 地域の北、南について違いがある  
↳地域を知っている人が必要
- ・ まち協から話し聞いた方が良い
- ・ 予防にかかわる

⑮

- ・ 外出するのが少ない
- ・ 移動支援も色々なやり方があるが知らない人とは…
- ・ 誰に対してお手伝いしたら良いか
- ・ 集まる場や機会があって、人となりを知ってからマッチングになるとサービスをうけやすいのでは？
- ・ 実際に介護をしていて、親の状況をみる中で地域の人の手をどう借りたら
- ・ 訪問サービス A はとても良い仕組みだが（有償ボランティア）課題はどこにあるのか
- ・ 本人が望むこととサービスを提供してくれる側とのミスマッチもありそう

⑯

- ・ 生活支援ニーズの多様さ、ゴミ出し、雪かき
- ・ 制度で対応できないニーズを領域
- ・ 制度の仕組みで解決しようとするものの難しさ

- ・ SIB の領域と相性いいかも

- ・ 公的財源以外でまわす

⑰

- ・ SIB ニーズ大切、自分ごとすること、伝えること
- ・ A 利用いない=「楽をしたい」に直結しやすい
- ・ B の方が相性が良いのかなあー
- ・ 担い手あつめる難しさ、誰がどうするの？
- ・ 担い手女性が多い、男性の参加どうする？

⑱

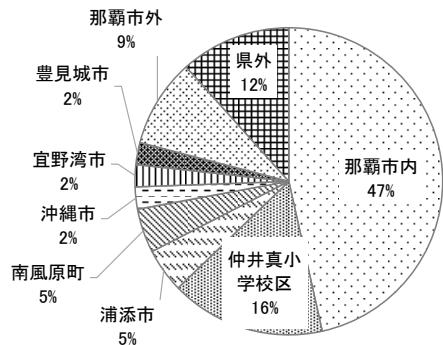
- ・ 地域の高齢者
  - 地域行事に参加する人  
⇒元気、状況が見える
  - 外出（少）行事参加（ナシ）  
⇒支援が必要だけど状況が見えない
- ・ そうだなあと
- ・ 自分で助けを求めるのも難しい
- ・ お願いする方もされる方も楽しさがあるといい、ポイントとか
- ・ 老いるということに対する不安
- ・ 近いが故の抵抗感（プライバシーなど）
- ・ 誰が来るかが頻繁に変わると不安かも

## 仲井真小学校区の介護の担い手を考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

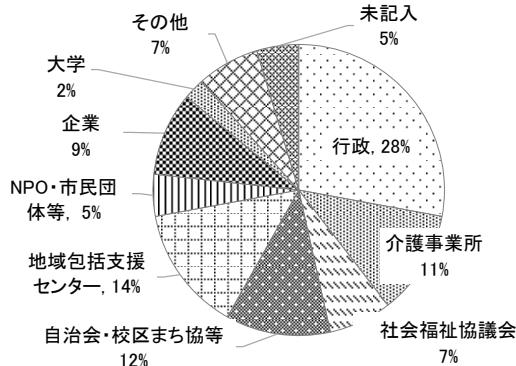
### ◆概要

- ・日 時：2025年10月8日（水）18:30 - 21:30
- ・場 所：那覇市人材育成支援センターまーいまーい Naha ホール
- ・着席者：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：67名（行政、自治会等地域組織等）  
(アンケート回収43名、回収率64%)

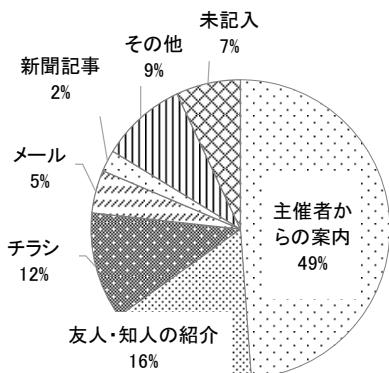
### 1. どちらから？



### 2. 所属



### 3. 円卓会議はどのように知ったか



### 4. 満足度

平均：4.7 (5点中)

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足	未記入
30名	9名	2名	0名	0名	2名

### 5. 満足度の理由

#### (5. 満足)

- ・事実ベース、数字もおさえた内容だったので、イシューを捉えることがだいぶすすみやすかったと思います
- ・次にどこを見たほうが良いのか等、私たちが考える題材もたくさんいただきました
- ・様々な立場からの意見を聞いて、社協としても選択肢を広げるために何ができるのか考えていかないとと思った
- ・様々なアイデアが出たことで面白かったです。参加者とのセッションを通して制度を活用して自由に考えることができた
- ・介護制度の現状と課題を学ぶことができた。これからの方について話し合うことができた
- ・地域課題が何があるのか知ることができると共に第3者である自分が無縁の那覇市仲井真地区の中に入り込んで考えることができます。つまりインプットとアウトプットが短時間でできることを感じ、とても勉強になりました。自分が行政の仕事していることもあります。今日住民目線（知らない土地だから）の傾聴をしていましたが、説明の仕方についてもカタカナは分かりにくいと分かった。

- ・ タイムリーな社会課題に対するチャレンジングなアプローチでとても興味深く伺いました
  - ・ 様々な人が集ることで新たな課題発見、共有できてすばらしいと思った
  - ・ 様々な角度で演者さんの声が聞けて、多くの希望の中には、多くの課題がある事が共有できる場になったかと思います
  - ・ 円卓会議の手法とテーマに対する解像度が高まったから
  - ・ 多様な参加者
  - ・ 様々な取組について知ることができた。沖縄市だけでは知ることできない内容で考えることができた
  - ・ 多くの立場からの情報をきけたため
  - ・ 地域の課題をみんなで解決するという姿勢がステキ
  - ・ 多職種の専門家の意見が聞けて、勉強になりました。特に司会の平良さん、記録の宮道さんの技術がすごくておどろきました
  - ・ 専門外であったが制度の話含め大変勉強になりました
  - ・ はじめて円卓会議体験して、進行（意見交換、ふりかえり）等で気づきが多く、たのしい会でした（ワクワクでまた参加したい！）
  - ・ 沖縄市はない取り組みについて知ることが出来ました。課題は共感することも多くはげみになりました
  - ・ 今後、浦添での導入に向けての参考となった
  - ・ 他職種の方の色々な意見がきけた
  - ・ 円卓会議（本家）の運営（Day3）が見られた
  - ・ 自治会全体で助け合いの仕組みがある地域を担当していたことがあり、助け合いの仕組みにメリット、デメリットがあることは知つていて、継続するためにはどうしたらいいかを感じていたため本日、色々な意見を聞くことができた
  - ・ スライドが見やすく話しがわかりやすかつた
  - ・ いろんな視点で意見を聞くことができた
  - ・ 各ステークホルダーからの専門的な発言、参加者からの感想、意見、それぞれを共有して提供された論点について深められた
  - ・ 地域の課題を深く知れました
  - ・ SIB のしくみがわかった
  - ・ 様々な立場の意見が聞けてよかったです
  - ・ ものすごい情報量を限られた時間でよくまとめていただいた。市の職員さんも参加していましたこともよかったです。参加者の属性がより多岐にわたるとよい
- (4. 概ね満足)
- ・ 当初の企画について参加みんなが色々な意見を話されていて有意義な時間になっていたため
  - ・ 介護担当課のみならず、住民代表、地域の皆様集まり、活発な議論が聞けた。SDGs 推進につながる取り組みであり、大変参考になった
  - ・ 普段とは違う職種の人からの現状や考えが聞くことができて勉強になった
  - ・ 自分が知らない世界で楽しかった
  - ・ 子育て分野に置き換えて聞いていましたが、制度のカベがあると思った
  - ・ 地域の課題のみつけ方と地域のために何かしたいと考える人たちがたくさんいるんだと思いました
- (3. 普通)
- ・ 話しが専門的すぎてむずかしかった
6. 円卓会議で印象に残ったこと
- ・ 「地域に貢献したい」そのためのメニューを増やすことで取り入れやすくなる。
  - ・ A'、A にとらわれないこと
  - ・ 子どもたちも巻き込んで高齢者を支えるというのは理想的だと思った
  - ・ 子どもとのつながりはいいですね。学校や学童、放課後デイなどとコラボしてテストして

みたいですね

- ・ 提案の訪問型サービス Aだけでは限界があり制度を変えた A' を那覇市としても検討してもいいのではないかと思った。また学生ボランティア（サービス B）の受け皿はまち協を活用した方がイイと考える。制度以外でもニーズを整理し必要な方に地域全体で支える仕組み作りと一緒に考えたい
- ・ 高齢者だけでなく、子どもと一緒にというアイデアはとても良いと感じた。一方で子どもに社会の現実を体感させるのは少々暗い（明るい話題ではない）と感じました
- ・ 中高生もスキ間を埋めるサービスの担い手として活用するアイデア
- ・ 一つひとつの選択肢にとらわれず、ニーズの解像度を上げてより良い選択につなげる
- ・ 訪問型サービス Aについて、需要がある中、担い手が不足していたり、高齢者の独居暮らしも多いことは、地域、行政、企業と様々な連携が必須であり、今後大翔様のような取り組みも不可欠と感じました
- ・ A 型でやるべきなのか、B 型でやるべきなのかという
- ・ A、B、C 併用できない。A'
- ・ 子ども達とのかけ合わせ
- ・ 固定の考え方だけでなく派生した取り組み
- ・ 訪 A に捉われない形も考えてよいのではという発想にとても印象に残りました
- ・ 地域の高齢者と子どもを掛け合わせたサービスが良いアイデアだと思いました
- ・ まーいまーいケアサイクルは訪問 A との結びつきで考えていましたが、そこにこだわる必要がないことを考えさせられました
- ・ 支援を受ける人の中には近所に知られたくない人もいる、その場合、ブロックを創るビジネスモデルはニーズにマイナスに働くのではという意見
- ・ 地域の課題のあいまいさは人のつながりがないことと思った

- ・ 那覇市 SIBについて市民が社会的取り組みに参加するいいきっかけと思った
- ・ 子どもと大人が一緒にサービスを行う
- ・ 空白地帯をどう考えるか。色々な選択肢が必要だと思った
- ・ 多世代での課題解決
- ・ 多様なメニューに A がある
- ・ ニーズを制度で埋める難しさをどうしたらよいか考えさせられた
- ・ 多世代で介護保険、社会福祉のすきまを埋める
- ・ 制度と生活の間をどのようにうめるか。今後の課題だと感じた。A、B の併用が良いアイデアと思った
- ・ 大阪の事例
- ・ ニーズの解像度をあげる必要性を司会の方がまとめにおっしゃって下さったことはよかったです。包括は、フォーマル、インフォーマルを問わず、対象者にとって必要な社会資源を結び付けることが大切です。又、空白を埋めるためのサービスを考えるだけでなく、空白をつくらない（減らす）視点や、介護予防も前者以上に大切です
- ・ 訪問 A だけに固執しなくてもいいのでは。様々なメニューを選択肢として拡げては。
- ・ 多くのステークホルダーが集ると多様なアイデア、つながりができる。つながる、つなげることの意義を改めて学べた
- ・ サブセッションで訪問 A と訪問 B（子どもに担い手になってもらう）をかけ合わせて地域の高齢者を支えるアイデアは面白いと思った
- ・ 色々な人が参加しやすいように多様なメニューがあると良い
- ・ 訪問サービス A にこだわっていないのはいいと思います
- ・ B↔A は行ったり来たりすることかなと思った
- ・ 支援したい人、されたい人を広報などで募集

してみるといいのかな

- ・ 地域住民がマイクをもって話をきけたので良かったと思う

#### 7. 会議運営へのご意見、感想等

- ・ 満員、すばらしい！内容、情報、共にとても良かったです
- ・ 話しやすい席の配置、書くのが難しいかなと感じた
- ・ スタッフのサポートがスムーズでよかったです
- ・ 初回としては、イイ会議だったと思います。もう少し話し合いの時間があればさらに良かったと思います
- ・ 円卓会議は、共に地域課題を考えるきっかけ作りになるし、短時間でインプット、アウトプットすることができるので、人材育成という面でも活用できると感じました。ぜひ人材育成としての研修として検討したいと思います。
- ・ 充実した会議でした
- ・ サブセッションの時間は参加している実感が持てた
- ・ イイね！が最後の感想です。国場自治会でこのような（メンバー）円卓会議してもらいたい！
- ・ 参加者がスライドの写真撮ってOK？
- ・ とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ これから当事者のニーズや声を聞く必要があると思うのでその際もご一緒したいです。
- ・ すばらしいシステムですね。円卓会議
- ・ 包括として介護予防、自立（律）支援、重度化防止のため地道にとりくんでいきます。
- ・ 参加者がそれぞれの立場で想うところがあつたいい機会でした。
- ・ 制度の問題もあり、制約もあると思いますが、良い事例になる可能性を秘めています。今後も議論を通して、新たなアイデアつながりが出てくることを期待します。
- ・ 合間に少し休憩タイム（トイレや水分補給）できるタイミングあると良い
- ・ 5分程度でもいいのでトイレ休憩が必要と思いました
- ・ 板書はわかりやすかった

(写真) 会場の様子



日々大工とか 特いなことない...  
道とかより 不~~可~~能ががちが大々  
制度にぶらさがる→介護 まちになる  
地域の事業所でお茶の人だり  
ゆんたくの場になれるんじや  
包括になりてもいいかな  
→情報源になるがな  
孫のや話してるが、成長した後...  
仕組りをうまくつかえればでは  
私もやPTA→うまく活用もあり  
制度にしばられる... まち協に相談

ためになりました

訪A → 調整しつないだニヒガ"ある  
時間が"かがった  
おもったのと違う... (利用者)  
専門がいい... ↗

A → 往前に切り替えた

市民の意識が大切  
毎日1回も出ない人がいる→23歳  
まちやーとか ゆくるところがあった  
りどう→支えたら支えられる

制度上 時間かかる  
高齢者→アロジヤない...  
スッキンぐも大変

、Y370-232. 会員登録 & WIN. WIN & G..  
Tel 03-3661-7211. 73-2

、会員登録. - 会員登録 登録  
会員登録 登録 登録  
会員登録 登録 登録

会員登録 登録 登録

、会員登録 登録

利用する側が知らないと、つながらない。利用できない  
プロジェクトを市民会員（家族は市外かもしれないが、市外も含めて）知らせる  
必要があるのではないか。  
色々な街からの広報・周知が必要ではないか。  
地域の方に見られていて、自宅に入れる時に抵抗があることでどう対応できるか?  
議論題では?

27. 10/8

## どうすれば成功するのか？

- 制度の理解がむずかしい  
→理解してもらう→研修
- 例) 沖縄市 研修受けた雇用につながらない
- 気が重い。
- 訪問介護への理解 → 訪問リスク
- おためし期間など、~~アシスタント~~アイシカを確認  
利用者+住民
- デリバリーなど、登録 → ボラセン、マッチングアプリ  
開発

- どうやって  
(誰)いる人をさがすか？
- 国島自治会  
元々ある自治会。  
アライバーを気にして  
かえって難しい。
- ちつと離れていいよ(まか  
まく)のでは
- やんて(中間)はいいや  
中に入る(世話をしないといい)
- 自分から相談しにいく  
のでは。
- 友達単位での開催など

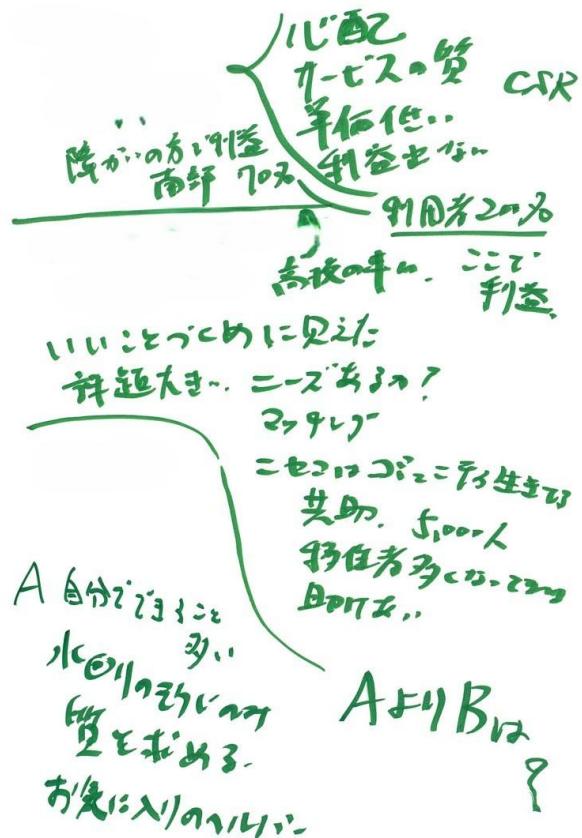
- 今後起きたら何がなにかと  
サービスが必要となる人のこと。  
民を多めとして知り得た  
今後、支援の必要な情勢は  
包括的に提供。

- サービス利用した人へ  
手配した人の両方とも  
への連絡
- アライバー・配慮のナヘ
- 65歳の集会とかで  
↑ 制度説明?  
定年迎えた同窓会
- 日頃からのコミュニケーション重視

「あいた」や「大切だ」と感じていた  
→ 支援が必要とする前の支援で。  
考え方の必要性（ソーシャルカフェなど）

- ・スモールスタート（若者も参加できれば）
- ・どうすれば「実現するためにはどうすれば？」

・訪問Aより多くの生徒がいるを必要  
・生徒数 = 1年生で100人に対して200人



- ・訪問B ニーズ高.. 需要 > 供給  
コーデネーターが7人  
B着用講座1.5h  
サービス内容はほぼ同じ  
料金は自己負担
- ・必要な社会資源を結びつけ  
統合、訪問A・B・複数回援助...
- ・田中先生のみ地元負担を減らすため  
介護予防対策 啓発。

- ・加入料金はつまらない  
どうやつくればいいのか。
- ・ポイント制度  
お金ももらしてもらえる制度  
自分、自分のためにも。
- ・プライバシー

車業所が"Aを立上げるのはすこしい  
ハーダルが高いか成功しえず"、  
マッチングでつなげられる。  
当車者との対話も必須。  
BからAに  
責任 背負なづく。

- ・県外からの視点 / おでんある事例
  - ・周知の課題
  - ・資金と継続
  - ・リスク管理
  - ・どう進行? 何が事
- 住民負担  
↓  
プライベートの課題  
どうおまかせか  
自治会が団結と  
士と連携か  
企業が入ることじ  
解決できましたか?  
★大じる  
外から来てほしい  
人もいるかも

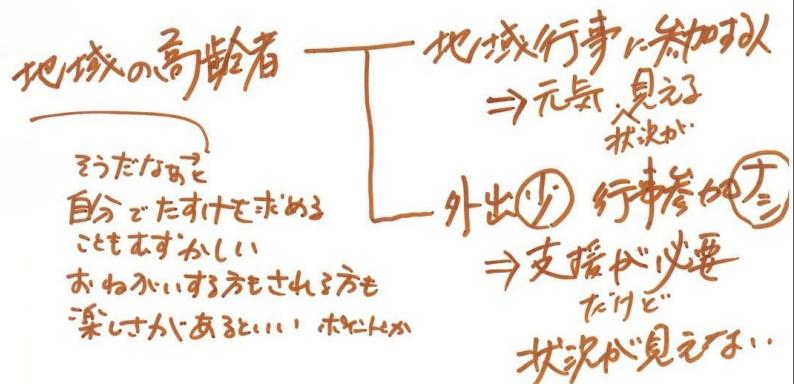
- ①プロジェクトについて
- ・地域の地・風について色がある。  
→ 地域を知らない人が心配。
  - ・地図から神奈川や東京が良い。
  - ・タブレットがある。

- ・外出するのバリアフリー
- ・移動支援をどのようにおこなうか  
和らげる人など…
- ・誰に向けた支援(?)をすればいい?
- ・集会場や機会がある時、人々が「工夫」を  
マッチングしながら、サービスを行っていくのでは?

- ✓ 実際に今導入している、親の状況に対するもの  
地域の人の手などを借りてみる。
- ✗ どちらがサービスAIはとても良い仕組みか  
(有償ボランティア) 詳細はどこにあるのか
- ✓ 本人が望むことやセミナー提供してもらったり  
ニーズが何もあると?

生活支援ニーズの多様さ、ゴミ出し  
制度で対応できないニーズを  
領域  
制度の工夫などで解決しようとすると  
難い。  
SIBの領域と相性いいかも。  
公的財源体制で取り組む。

- ・SIBニーズ大切  
自分自身するに伝えること。
- ・A利用しない=樂としているに連結しやすい
- ・Bの方が相性が良いかなど
- ・担い手あつめる難は誰がどうするの?
- ・担い手女性が少々、男性の参加どうする?



- ・老いといつこに叶する不安。
- ・近いやゆの孤独感。  
(プライバシーなど)
- ・誰が来るかが  
頻繁変わること不安感。